



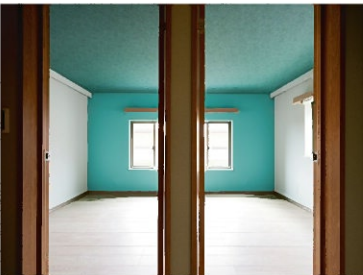
ARCHITECTURE REVIEW



建築見て歩記 その69

名古屋市中区にあるレストラン「シェネルボーン」です。吉柳満の設計で1983年にオープンしました。少しわかり難い場所で、看板も無い店ですが、40年近く経った今も、変わらない質を保っています。設計者の拘りから徹底的なシンメトリーで構成された空間は、インテリアの概念も使い勝手も軽く乗り越え、「内部建築」として空間の構成美に満ちています。

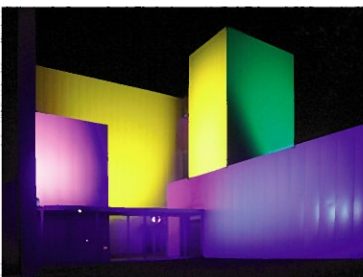
CURRENTLY WORKS



木造住宅のリフォーム・・・夢と驚きのある住まい 3

現在は、子どもたちと共に眠る寝室ですが、将来的に二つの子ども室となることを想定して、ドアが二つある部屋を計画しました。正面の窓も二つに分け、部屋の真ん中に間仕切りが立つことを前提に、照明配線や空調等を準備しています。仕上げ材はご主人の強い拘りを受け止めつつ個性のある色味と柄を選んだ事で、一味違う住まいになったと思います。

PRIVATE TOPICS



太田のアート探訪記 その16

これは西澤立衛が設計した「十和田市現代美術館」の夜景ですが、実はこれ自体が、高橋匡太のアート作品です。外壁に様々な色の光を投射しそれぞれの色がどんどん変化しながら、建築を染め上げています。この様子は、動画でなければ伝わらないと思いますが、瞬間毎に現れる色の饗宴は見ていて飽きることがありません。白い建築はキャンバスなのです…

EDITORIAL NOTE

4月と言えば「花見」の時季です。歴史的には、奈良時代の貴族の遊びから始まり、室町・鎌倉の時代には、武士の階級にも広がりました。江戸時代になって、やっと、庶民の楽しみとして定着し今に至っています。桜の開花は、入学式にも付き物ですが、最近は季節がずれて、淋しい気もします…

編集担当：太田・藤原、監修：岡島